

ウズベキスタンにおける VE 普及活動に関するレポート

タシケント工科大学副学長 西山 聖久 VES

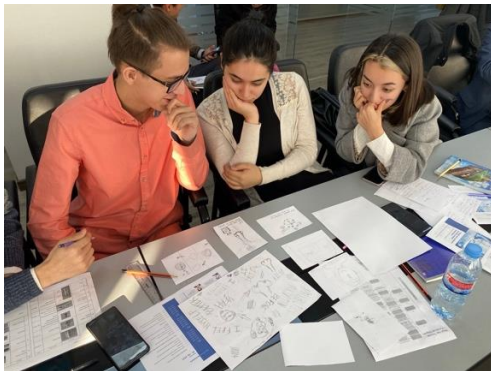
筆者は 2020 年 9 月より、ウズベキスタンの首都、タシケント工科大学に副学長として赴任し、大学の教育改革に取り組んでいる。一方、タシケントに居住する機会を生かし、VE・TRIZ の普及にも精力的に取り組んでいる。以下、2021 年の後半にタシケント工科大学や UJICY (Uzbek-Japan Innovation Center for Youth) が中心となり現地において開催した、VE・TRIZ ワークショップに関する報告を行う。なお、本イベントを主催した UJICY は、ウズベキスタンにおけるイノベーションの普及推進を行うウズベキスタン政府の研究機関である。



6 月 16 日には、VE・TRIZ の紹介セミナー、“Introduction to systematic innovation”をオンラインにより開催した。本イベントは、VE ワークショップとしては、おそらくウズベキスタンで初となる試みである。講師として、立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科教授 (有)バリュー・イノベーション研究所取締役・所長の澤口学氏をお招きし、筆者は、現地での進行を担当した。参加者は、仕事で解決困難な問題に直面している方、組織でイノベーションを起こす必要性を感じているマネージャー等を対象とした。オンライン、オフラインによる参加者は、五十名を超え、その多くは、新しい考えに熱心に耳を傾けていた。翌週の 6 月 23 日には、上記のセミナーを通じて特に VE・TRIZ に興味を持った人を対象に、ボールペンを事例に、機能分析や 40 の発明原理を活用したアイデア出しを体験してもらった。

A poster for the UJICY Innovation Seminar Series 2021. The title is "Introduction To Systematic Innovation". It lists two sessions: the 1st session on June 16, 2021, from 15:00-16:30, and the 2nd session on June 23, 2021, from 10:00-15:00 (workshop). The location is the Auditorium of Uzbek-Japan Innovation Center, with registration starting at 14:00. It features photos of Dr. Kiyohisa NISHIYAMA, Vice Rector of Tashkent State Technical University, and Dr. Manabu SAWAGUCHI, Director of Value Innovation Institute Co. Ltd. The poster also lists what attendees will gain from the seminar, who it is best for, and what the seminar contains. Logos for UJICY, Tashkent State Technical University, and JICA are at the bottom.

数ヶ月後の11月下旬に、澤口教授をタシケント工科大学にお招きし、11月25日、26日の二日間に渡り、オフラインによるワークショップ“Change your problem into valuable innovations”を実施した。対象者は、タシケント工科大学、タシケント経済大学の学生20名で、上述した6月のワークショップに参加しVE・TRIZに興味を持ったものも含まれていた。本ワークショップにおいては、参加者を数名のグループに分け、エチケットシェーバーを使った機能分析や40の発明原理を活用したアイデア創出を行い、ワークショップの最後には各グループが考案したアイデアを発表した。また、12月2日には、タシケント経済大学にても講演を行い多数の参加者を得た。



現在、ウズベキスタンは、二代目の大統領であるミルジヨーエフシャヴカト・ミルズィヤエフ氏の主導により急速な経済発展を遂げている。産業の普及もめざましく、タシケントの街には多くの自動車が走っており、それらの部品を生産する自動車工場では、トヨタ生産方式を活用したカイゼン活動などの試みを実施されている様子である。現状、多くの工業製品の製造は、外資企業の技術に頼っている様子であるが、今後さらなる産業の発展が進めば、国産製品の開発のためにも、VE・TRIZのような手法も積極的に導入されるものと期待している。筆者は、引き続き、タシケント工科大学の副学長として、同国の未来を担う工学人材の育成するとともに、更なるVE・TRIZの普及に努める所存である。